

農道の擁壁に大きな亀裂を発見



南側の擁壁は水路の暗渠に接する部分で大きな亀裂がある。子の暗渠との関係で亀裂が生じたのではないかとみられている



北側の擁壁は東詰めから8メートルの位置に亀裂

大森農道の東詰めは市道との接続のために勾配が付けられていますが。その法面には雑草の繁茂を防ぐために数年前に防草用のグラウンドシートを貼り付けています。

しかし、このグラウンドシートの固定は容易ではなく、何度も手直しをして維持してきました。そこでこのシートの固定を図るために対策をしようとして計画していましたが、擁壁の2か所に大きな亀裂があることが分かりました。

そこで現状を市の農業整備課や小郡総合支所の土木課とも相談して、計画を変更することにしました。

当初は農道の上からの圧力で擁壁が南北方向に圧迫を受けて亀裂が生じたのではないかと考えておりましたが、市の担当課のアドバイザーでは「東西方向の伸縮による亀裂」という判断となりました。

南北方向の土圧を考慮しないという点で、南北方向であれば部分補修も可能で



役員で現状のb確認を行った(1月31日)

あるので、亀裂個所の裏面に補強をすることで、施設の長寿命化を図ることにしました。

工事の期間は大森農道の通行ができませんが、ご了承ください。

自治会の総会等の開催の自粛

新型コロナウイルス感染の状況がまだまだ落ち着きません。様々な場面で会議の延期、大会の中止となっているのは、みなさまもご存じの通りです。

市の担当課からは、この時期の大人数の総会などの開催を自粛し、役員会や書面決議方式で実施するように各自治会に指導を行っています。

八方原自治会では例年3月の総会で新年度の役員を選出し、4月の総会で前年決算、新年度予算を審査し令和3年度をスタートするのが通常です。

しかし、この状況では大人数の参加する会議は開催できません。役員人事の案については、現会長が個別に交渉して陣容が固まりつつあります。

令和2年度末と令和3年当初は必要に応じて書面決議の手続きをいたしますので、ご理解ください。

八方原自治会 副自治会長 原田茂樹

伝統的な農家の仕事「麦踏み」

「麦踏み」というのを覚えていらっ
しゃいますか。麦が良く育つようにあ
えて踏みつけていく作業です。

踏みつけてられて、根がしっかりと
張る、あるいは茎が折れ曲がることで
新しい芽が出て「分けつ」が進み、よ
り多くの収穫が期待できるとされてい
ます。

暖かくなると茎が伸びてくるので、
それまでが「麦踏み」の季節です。し
かし広い農地なので、人手に任して踏
んで歩くというわけにはいきません。

作業は計画的にやる必要があります。

農事組合法人八方原では麦踏みロー
ラーを導入して作業を行いました。従
来からある耕運機にローラータイヤを
取り付け、トレーラー部分にも鉄製の
ローラーを装備して麦畑をゆつくりと
進みます。

麦を傷めないように滑らかな表面の
ローラーなので、少しの「くぼみ」で
も動けなくなります。溝を渡るときに
は、そこに板で橋を架けて、慎重に進
んでいました。



超ワイドタイヤ仕様の耕運機に転圧用ローラー

カローリングは年齢性別関係なしのゲーム



なかなか思うところには止まらない



転圧した方向がはっきり分かるほど踏みつけても、数日で元に戻るとのこと、強い復元力

2月20日、小郡ふれあいセンターで
おごり地域づくり協議会の主催第14
回カローリング大会が行われました。

この大会は、毎回20チーム以上の参
加がありますが、今回は新型コロナウイルス
イルス感染予防のために、参加チーム
は9チームと少々寂しい結果になりま
した。

競技は氷の上で行う「カローリン
グ」を体育館のような硬い床の上で、
ジェットローラーという円盤を使って
行われます。

上郷地区の方も多く参加されます。
みなさんも参加してみられませんか。

プラとペットボトルのネット



収集の直前には毎回、山盛りの状態になる

毎週月曜日のプラスチック資源ごみ
の回収。専用のネットは殆ど毎週いっ
ぱいになります。

このネットとネットを支えるフレーム
は各班の班長さんが当番で出し入れを
されています。6枚のネットとフレー
ムを集積所から出し入れをするのは、
楽ではありません。集積所から出して、
収納まで2日かかりとなります。

衛生部長の重富さんは、「ネットと
フレームの設置を全て集積所の中でや
るようにしたい」との意向です。

令和3年4月からは集積所の中での
「提出・回収」に改まります。